

断トツの賃貸売上げNo.1

昨年7月、三井不動産販売の100%出資会社になった横浜リハウスには売買部門で全国トップクラスの売上げを上げている営業マンがいるが、今年新設された「みなとみらい店」には賃貸部門で抜群の成績を上げている人がある。リース課課長・

小島せつ子さんだ。この道20年のベテランで、小さい頃に学んだフィギュアスケートの“正確にスピーディーに”を仕事でも実践している。「走りつづけること、止っちゃダメ。私を追いかけて」と呼びかけたいそうだ。

「1位になるってかは、いねぼっちも考えていません」



横浜リハウス(株) みなとみらい店 リース課課長 小島せつ子さん

”正確にスピーディー”を実践

“元気印”
人と企業

「明日になれば価値が全然違う」
小島さんの具体的な売上数字を示せないのが残念だが、社内では2位以下を大きく引き離し、ずっとトップを走りつづけている。一般的な営業スタッフの2倍くらい稼働。今年の3月かなり高い目標を掲げられ、小島さんは、その数字の大きさに少しは驚いたそうだが「ノー」とは言わなかった。そして見事、その数字をクリアしてみせた。どうしてそんなにできるのか。
「私は、自分ではおつとりしている性格だと思つていますが、1位になるってかは、これっぽちも考えていません。結果的に数字が上がっているだけです。もう20年間も続けていて、お付き合いの長いオーナーさんが何人もいらつしていますから。恵まれているのだと思います。いつも『小島さん、これ貸せるかしら』と声をかけていただきますし、それにきちんと応えているからでしょう。」
ただ一つ、入社以来ずっと心がけているのは、落ち着いて、スピーディーにということ。とにかくミスをして、タイムリーなサービスをするということです。お客様が今日、今すぐ欲しいサービスを提供する。明日では遅いんです。明日になれば、価値が全く異なってくる。相手が求めているもの、欲しいものを提供する、このことに尽きるんじゃないかと思ひます。」
スピーディーとは、頭の回転が速いといつのももちろんだが、てきぱきと事務量をこなす速さだけではない。小島さんはいつ、
「そうですね。何しろ月に20件から30件こなしますから、普通にやっていたのでは間に合わないのです。ですから、電話をしながらか書類を整理し

「走りつづけること、止っちゃダメ。私を追いかけて」

たり、同時に何かしらをしていますね。身体に擦り込まれているんですからね。」
小島さんのけた違いの速さにはみんな一目も二目も置く。同社部長・河野通朗氏は、小島さんを次のように評している。
「彼女がこれほどの成績を残せるのは、スピードの一言に尽きる。やることなすこと、一つひとつに無駄がなく、タイムリーに動く。彼女が取り組むと、どのような難しい案件でもまとまってくる」と。



同社で月単位では契約件数が小島さんを上回ることもあるという同社リース課副主任・宮嶋英光氏も、小島さんは脱帽だ。「小島課長は私の師何とか追い抜きたいがなかなかできない」という。

小島さんは、同僚から目標にされることを一向に気にする様子がない。むしろ楽しんでいるようだ。同僚にはこうアドバイスする。

「貸主、借主の話をよく聞いて調整役に徹すること。走りつづけること、止っちゃダメ。私を追いかけて」

新

社に勤めながら取得したのですが、会社の人には内緒で受けました。よく有言実行なんていいですよ。私は、不言実行喋って落っこちちゃったら恥ずかしいですよ。ね。その時も、会社で5人の男性の方が受験して、みんな周りの人に喋っているんじゃないかしら」

第19回RBA野球大会 日曜ブロック決勝戦

渡辺2安打 片寄が決勝打

4月9日 東京ドーム(19:40~) 観衆600人

ポラス 0 0 0 1 1 | 2

ケンコーポレーション 0 0 1 2 X | 3

○笠 ●近藤 2塁打 渡辺 (5回時間切れ)

宙に舞うケンコーポレーション田邊監督

ポラス	打点
1 荒川	2 0 0
打走	2 1 0
打	1 0 0
4 高成	1 0 0
打	0 0 0
4 村野	1 0 0
打	1 0 0
4 熊本	3 1 1
打	1 0 0
4 中島	1 0 0
打	1 0 0
1 近藤	1 0 1
打	0 0 0
1 7 宮山	1 0 0
振球機	1 0 0
7 7 1	1 7 2 1

ケンコーポレーション	打点
朝日	2 0 0
7 大関	3 1 1
打	2 1 0
7 渡辺	2 2 1
打	2 0 0
9 中村	2 2 0
打	2 2 0
1 笠	1 0 0
打	1 0 0
8 藤矢	1 0 0
打	1 0 0
8 金子	2 1 1
打	2 1 1
振球機	1 3 0
1 3 0	1 8 7 3

投手	回	安打	振球	責
近藤	3.05	1	1	2
宮内	0.21	0	2	1
中村	0.11	0	0	0
笠	3	1	4	4
2 塁打	2	1	3	3
渡辺				

ポラス 最終回の猛攻及ばず

大活躍したケン渡辺選手
(右)と片寄選手

この代わった2番手投手の宮山から1死後、片寄が右翼前安打で再び1点リード。なおも朝日が四球を選び満塁とし、急ぎ登板した相手3番手投手・内田から大原が左翼前安打を放ち追加点を挙げた。

先発の中村は制球力を欠き3回まで4四球を与え降板。4回から登板した笠も制球に苦しみ、4回に1失点、さらに5回にも2つの四球と味方の失策で無死満塁のピンチを迎えたが、野口の適時打の1点に抑え辛くも逃げ切った。



田邊監督

「不動産不況? そんなの関係ない」ケン田中社長



相手は、うちの実績を見て萎縮してくれるからありがたい。不動産不況? そんなの関係ない。当社はデベロッパーじゃないから影響は少ない。転がしなんか全然やっていないし、真面目に取り組んでいる。



飯田監督

●飯田監督 監督の責任勝てた試合だったが、自分が舞い上がってしまった。東京ドームは初めての経験だったが、次に生かしたい。

ケン中村—笠の継投で逃げ切る

0-0で迎えた3回 2塁打を放ち1点先制。裏、ケンコーポは2死から尾関が内野安打で出塁、続く渡辺が左翼超え、笠が内野安打で出塁、こ

無死満塁で3番、4番に代打は?

記者の目

試合は、水曜、日曜ブロックとも記者の予想通りの結果となった。旭化成ホームズは強い。鈴木監督は試合後、八幡対策を十分練っていたと語ったが、さすがだ。野球だからといって手を抜かないのが8度も優勝できた原動力だ。リストは、1点もやれない、状況に追い込まれたのが敗因だろう。悔やまれるのは押し出しの場面。カウント2-1のあとだっただけに、変化球なら八幡は討ち取れたのではないかと。日曜ブロックは、経験の差が出た。ケンが土壇場で踏ん張ったのは、修羅場を潜り抜けてきた底力が生きたといえる。渡辺、笠らのベテランがチームを引っ張った。ポラスは、飯田監督自ら語ったように初めてのドームで舞い上がってしまった。最終回、無死満塁で3番、4番に代打はとうだったか。あそこは勝っても負けても主力に打たせる場面だった。



最終回、スクイズを外されるも必死でボールに当てるポラス藤枝選手(その後は三振)

旭化成ホームズの勝利の瞬間

倉持監督

回、２死・塁から３番・渡辺康が中堅前安打を放ち、２塁走者・三好が果敢に本塁をつくも憤死。５回にも、この回先頭の７番・野国が中堅超え３塁打を放ち、続く山本が死球で好機を広げ、９番・中山の３塁ゴロで野手失点が痛恨の死球押し出した。

△２本目の右翼前安打を放ち、１死後、森下が左翼前に運びチャンスをつくったが、後続を断たれた。放った安打が３本では攻略の糸口がつかめなかった。

八笈投手は、今大会初年長の（30歳）